

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		転倒骨折予防事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加			所属課	高齢者支援課	担当者名	安武志穂
	基本事業	49	高齢者の介護予防の充実			所属班	包括支援センター班	(内線)	2118
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法第115条の44	
		30	11	1	2	11266		成果優先度評価結果	8
								コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	転倒骨折予防に関する知識を普及するため、地域に出向いて骨密度測定や歩ビゲーターによる歩行能力測定と併せて健康教育を実施する。 平成18年度地域包括支援センターが設置されてから介護予防のため事業開始。 要介護認定者のうち、「筋骨格系の疾患」の割合が高く、予防対策が必要である。
【業務の流れ】	健康教育の実施、参加者の骨密度測定、歩行能力測定
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	固定化された一部の地域で事業を実施しているの、事業を実施されていない地域で実施してほしい。という要望はある。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO) 地域に出向き介護予防のための健康教育(講話)及び骨密度測定を実施し科学的な指標を本人が把握し生活習慣を見直すことができるよう指導を行った。	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 21年度と同様
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 ⇒ア 地域出前型教室開催回数・参加者	(単位) 回・人
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 一般高齢者	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 ⇒ア 高齢者数 ⇒イ
(単位) 人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 高齢者が運動習慣を身につけ、骨粗しょう症を予防することができる。転倒骨折による要介護認定者を減らす。	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 ⇒ア 骨粗しょう症を予防しようとした人数 ⇒イ
(単位) 人	
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 骨密度測定等を実施することにより、自己身体状況把握、予防に繋がるため。	

(2) 各指標・総事業費の推移			単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込	
④ 活動指標	ア	回・人		20回・651人	28回・883人	30回・900人	17回・660人	20回・680人	20回・700人	20回・700人	
	イ	回・人			4回・91人		2回・32人				
⑤ 対象指標	ア	人		10,114	10,503	10,589	10781	10827	11000	11300	
	イ										
⑥ 成果指標	ア	人		666	731	730	692	730	730	730	
	イ										
投資入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	28	293	106	59	126	126	126
			都道府県支出金	千円	14	146	52	29	62	62	62
			地方債	千円							
			その他	千円	13	584	213	118	252	252	252
			繰入金	千円	266	147	53	29	63	63	63
			一般財源	千円							
	(A) 事業費計		千円	321	1,170	424	235	503	503	503	
	(A)のうち指定経費		千円								
	(A)のうち時間外、特勤		千円								
	人件費	正規職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時間	30	311	310	310	310	310	310	
		(B)人件費計	千円	119	1,244	1,234	1,234	1,234	1,234	1,234	
トータルコスト(A)+(B)			千円	440	2,414	1,658	1,469	1,737	1,737		

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

0

<

谷志市

事務事業名	転倒骨折予防事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【理由】 外部委託方式から直営方式に変更し事業実施、インフルエンザの影響等により、予定回数が減ったため。
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 計画的に事業実施をするため、可能である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 固定化された地域で実施しているので、事業を実施されていない地域で実施する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 健康づくり事業等との連携・・・若年層からの転倒予防教室など。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 平成20年度は社協に委託し、従来の出前型に加えて一般を対象とした教室型の事業を開催したが、21年度は職員が対応し事業削減を行った。これ以上の事業費削減は困難である。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の時間であり削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域への出前型については、老人会やサロンを自主的に実施されている場所にて教室を開催する。一般募集型教室については、教材費・保険料等は自己負担しており公平・公正だと考える。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 事業内容上多くの部分で行政職員の関与が必要であるため、現状では外部委託は困難である。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

地域に出向いて各団体に指導を行うことにより転倒骨折予防の知識の提供や正しい運動の習慣化が図られ、持続的に予防に寄与することができた。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 転倒骨折予防のための対象の選定、教室内容の見直しなど検討が必要である。	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 講座の開催を希望する地区が限定されているため、他地区へ広げていくことが必要と思われる。																						